

今昔物語集(下巻)

校註

日本文學大系

第九卷



昭和二年九月十五日印刷
昭和二年九月十八日發行

(非賣品)

日本文學大系
第九卷

編輯者兼
發行者

東京市麴町區內幸町一丁目六番地

國民圖書株式會社

右代表者

東京市麴町區內幸町一丁目六番地

中塚榮次郎

印刷者

東京市本所區番場町四番地

井上源之丞

印刷所

東京市本所區番場町四番地

凸版印刷株式會社本所分工場

發行所

東京市麴町區內幸町一丁目六番地

國民圖書株式會社

電話銀座 七三八三番
二一八八番
三六八六番

振替東京 五二二九八番

例言

一、本卷は今昔物語集下巻として、巻第十六より巻第三十一までを収めました。

一、本巻は山岸徳平が擔當しました。

一、本書は流布本をもとし、主として芳賀博士の^攷證今昔物語集により校訂し、その他内閣本、

東京高等師範學校藏本、國史大系本、史籍集覽本をも參照しました。

一、本書には異本がいろいろありますが、その參考となるものは、本文中イ云々として現はしました。

一、本書中、闕字の所は、印を、意味不明の所は、マを挿入しました。

校註
日本文學大系 第九卷目次

今昔物語集 下卷（自卷第三十一）……………一一〇三六

目次

一

今昔物語集下卷目次

卷第十六

本朝附佛法

僧行善觀音の助けに依り震且より歸り來る語

第一……………三三

伊豫國越智の直、觀音の助けに依りて震且より返

り來る語 第二……………三七

周防國の判官代、觀音の助けに依りて命を存ふ語

第三……………三八

丹後國成合觀音靈驗の語 第四……………三二

丹波國の郡司觀音の像を造る語 第五……………三三

陸奥國の鷹取男、觀音の助けに依りて命を存ふる

語 第六……………三六

越前國敦賀の女、觀音の利益を蒙る語 第七……………三九

目次

殖槻寺の觀音貧女を助け給ふ語 第八……………四〇

女人清水の觀音に仕へて利益を蒙りし語 第九……………四二

女人穗積寺の觀音の利益を蒙る語 第十……………四三

觀音の落ちたる御頭自然に繼げる語 第十一……………四四

觀音火難を遁れむが爲に堂を去給ひし語 第十二……………四五

觀音人の爲に盜まれ後に自ら現はれ給ふ語 第十三……………四五

御手代の東人觀音を念じて富を得むと願ふ語 第十四……………四七

觀音に仕へし人龍宮に行きて富を得る語 第十五……………四八

山城國の女人觀音の助けに依て蛇の難を遁れし語

第十六……………四九

備中國賀陽の良藤狐の夫となりて觀音の助けを得

る語 第十七……………五〇

石山の觀音人を利せむが爲に和歌の末を付けし語

第十八……………五一

目次

目 次

二

新羅の後國王の咎めを蒙り長谷の觀音の助けを得る語 第十九	七三	長谷に參りし男觀音の助けに依りて富を得る語 第二十八	九三
鎮西より上る人觀音の助けに依りて賊難を遁れ命を持つ語 第二十	七四	長谷の觀音に仕へし貧しき男金の死人を得る語 第二十九	九六
鎮西を下る女觀音の助けに依りて賊難を遁れ命を持つ語 第二十一	七九	貧女清水の觀音に仕へて御帳を賜はる語 第三十	一〇一
癩の女石山の觀音の助けに依りて言語を得る語 第二十二	八三	貧女清水の觀音に仕へて金を賜はる語 第三十一	一〇三
盲人觀音の助けに依りて眼を開きし語 第二十三	八六	形の隠れし男六角堂の觀音の助けに依りて身を顯はす語 第三十二	一〇四
錯りて海に入りたる人觀音の助けに依りて命を存する語 第二十四	八七	貧女清水の觀音に仕へ盜人の夫に値ふ語 第三十三	一〇八
島に放たれし人觀音の助けに依りて命を存する語 第二十五	八九	無縁の僧清水の觀音に仕へ乞食の壻と成りて便りを得る語 第三十四	一一〇
盜人箭を負ひて觀音の助けに依りて當らず命を存ふる語 第二十六	九二	筑前國の人觀音に仕へて淨土に生まるゝ語 第三十五	一一三
觀音の助けに依りて寺鑓を借り自然償ふ語 第二		醍醐の僧蓮秀觀音に仕へて活るを得る語 第三十	

六	清水へ二千度詣の男、雙六に打ち入る語	第三十	二三
七	紀伊國の人邪見不信にして現罰を蒙る語	第三十	二五
八	招提寺の千手觀音盜人に値ひて辭びて取らせざる語	第三十九	二七
	十一面觀音老翁に變じて山崎の橋柱を立つる語	第四十(圖文)	二八
卷第十七			
本朝附佛法			
一	地藏菩薩の變化に値遇せむことを願ふ僧の語	第一	二九
	紀用方地藏菩薩に仕へて利益を蒙る語	第二	三二
	地藏菩薩小僧の形に變じて箭を受くる語	第三	三三

目次

地藏菩薩を念ぜるにより主殺しの難を遁るゝ語	第四	三四
夢の告げに依り泥中より地藏を掘り出す語	第五	三六
地藏菩薩火難に値ひて自ら堂を出づる語	第六	三七
地藏菩薩の教へに依り播磨國の清水寺を始むる語	第七	三九
沙彌藏念を世地藏の變化と稱する語	第八	四〇
僧の淨源地藏に祈りて絹を老母に與ふる語	第九	四三
僧の仁康地藏を祈念し疫癘の難を遁るゝ語	第十	四三
駿河國富士の神主地藏に歸依する語	第十一	四四
改めて地藏を綵色したる人夢の告げを得る語	第十二	四五
伊勢國の人地藏の助けに依りて命を存する語	第十三	四六
地藏の示しに依り鎮西より愛宕護に移る僧の語	第十四	四七

目次

四

地藏の示しに依り愛宕護より伯耆の大山に移る僧の語	第十五	一三
伊豆國大島の郡に地藏寺を建つる語	第十六	一四〇
東大寺の藏滿地藏の助けに依り活るを得る語	第十七	一四三
備中國の僧阿清地藏の助けに依り活るを得る語	第十八	一四四
三井寺の淨照地藏の助けに依り活るを得る語	第十九	一四六
播磨國の公眞、地藏の助けに依り活るを得る語	第二十	一四八
但馬の前司——國舉、地藏の助けに依り活るを得る語	第二十一	一五〇
賀茂盛孝地藏の助けに依り活るを得る語	第二十二	一五一
地藏の助けに依りて活りたる人六地藏を造る語		
第二十三		一五三
聊か地藏菩薩を敬して活るを得し人の語	第二十	
四		一五五
地藏を造りし佛師を養ひて活るを得たる人の語	第二十五	一五七
龜を買ひて放ちし男地藏の助けに依りて活るを得る語	第二十六	一五九
越中立山の地獄に墮ちし女地藏の助けを蒙る語	第二十七	一六二
京に住む女人地藏の助けに依り活るを得る語	第二十八	一六三
陸奥國の女人地藏の助けに依りて活るを得る語	第二十九	一六五
下野國の僧地藏の助けに依りて死期を知る語	第三十	一六六
説經僧の祥蓮地藏の助けに依りて苦を免るゝ語		

第三十一……………一六七

上總守時重法華を書寫して地藏の助けを蒙る語

第三十二……………一六八

比叡の山の僧虛空藏の助けに依りて智を得る語

第三十三……………一六九

彌勒菩薩柴の上に化し給ふ語 第三十四……………一七〇

彌勒盜人の爲に壞されて叫び給ふ語 第三十五……………一七〇

文殊行基と生まれて女人の惡を見給ふ語 第三十

六……………一七〇

行基菩薩女人に子の惡しきを教へ給ふ語 第三十

七……………一八〇

律師清範文殊の化身を知る語 第三十八……………一八二

西石藏の仙久普賢の化身を知る語 第三十九……………一八三

僧の光空普賢の助けに依りて命を存する語 第四

十……………一八三

僧の眞遠普賢の助けに依りに難を遁るゝ語 第四

目次

十一……………一八六

但馬國の古寺において毘沙門牛頭鬼を伏して僧を

助くる語 第四十二……………一八八

鞍馬寺に籠りて羅刹鬼の難を遁るゝ僧の語 第四

十三(以下第五十まで闕文)……………一八九

僧毘沙門の助けに依り金を産せしめ便を得る語

第四十四……………一九〇

吉祥天女の攝像を犯し奉り罰を蒙りし語 第四十

五……………一九〇

王衆女、吉祥天女に仕へ富を得る語 第四十六……………一九〇

生江世經、吉祥天女に仕へ富を得る語 第四十七……………一九〇

妙見の助に依りて盜まれし絹を得る語 第四十八……………一九〇

金鷲優婆塞執金剛神を修行する語 第四十九……………一九二

元興寺の中門に夜叉靈驗を施す語 第五十……………一九二

卷第十八(闕卷)

卷第十九

本朝附佛法

頭少將眞峯宗貞出家する語 第一	一九三
參河守大江定基出家する語 第二	一九五
内記慶滋保胤出家する語 第三	二〇〇
攝津守源滿仲出家する語 第四	二〇六
六の宮姫君の夫出家する語 第五	二二三
鴨の雌、雄の死せし所に來るを見て出家せる人の語 第六	二二八
丹後守保昌の朝臣の郎等鹿と成りし母を射て出家する語 第七	二二九
西京の鷹を仕ふ者夢を見て出家する語 第八	二三二
小兒硯を破るに依りて侍出家する語 第九	二三五
春宮の藏人宗正出家する語 第十	二三三
信濃國の王藤觀音出家する語 第十一	二三四

鎮西の武藏寺に於て翁出家する語 第十二	二三六
越前守藤原孝忠出家する語 第十三	二三六
讃岐國多度の郡に五位法を聞きて即ち出家する語 第十四	二三〇
公任大納言出家して長谷に籠り居し語 第十五	二四五
(關文)	
顯基中納言出家して眞言を受け學びし語 第十六	二四六
(關文)	
村上天皇の御子大齋院出家する語 第十七	二四六
三條の太皇太后宮出家する語 第十八	二四九
東大寺の僧、山に於て死せる僧に値ふ語 第十九	二五二
大安寺の別當の娘の許に藏人通ふ語 第二十	二五四
佛物の餅を以て酒を造り蛇を見る語 第二十一	二五五
寺の別當の許の麥繩蛇となる語 第二十二	二五八
般若寺の覺緣律師の弟子の僧師の遺言を信ずる語 第二十三	二五九

師に代りて太山府君の祭の都狀に入りたる僧の語

四(翻文) 二八五

第二十四 三六三

瀧口藤原忠兼實父の得任を敬ふ語 第二十五 二五五

下野の公助父敦行の爲に打たれて逃げざる語 第

藥師寺の最勝會に敕使盜人を捕ふる語 第三十五 二八五
藥師寺の舞人の玉手公近盜人に値ひ命を存する語
第三十六 二八八

二十六 二七七

河邊に住みし僧洪水に値ひ子を棄てて母を助くる

比叡山の大智房の檜皮葺の語 第三十七 二八九
比叡山の大鐘風の爲に吹きこばせらるゝ語 第三

語 第二十七 二六九

僧の蓮圓不輕の行を修して死せる母の苦を救ふ語

十八 二九一
美濃守の侍五位急難を遁れて命を存する語 第三

第二十八 二七一

龜、山陰中納言の恩を報ずる語 第二十九 二七三

龜、百濟の僧弘濟に恩を報ずる語 第三十 二七五

綱體高麗の僧道登に恩を報ずる語 第三十一 二七八

陸奥國の神、守の平維敘に恩を報ずる語 第三十

るの語 第四十一 二九三

二 二八〇

東三條内の神、僧恩を報ずる語 第三十三 二八三

比叡山の天狗僧を助けて恩を報いし語 第三十

貧女の棄子を取りて養ひし女の語 第四十三 二九五

達智門の棄子に狗密かに來りて乳を飲ましめし語	
第四十四	三九六

卷第二十

本朝附佛法

天竺の天狗海水の音を聞きて此の朝に渡る語	第一
----------------------	----

一	三九九
---	-----

震旦の天狗の智羅永壽此の朝に渡る語	第二
	三〇〇

天狗佛と現じて木の末に坐せる語	第三
	三〇六

天狗を祭りし僧内裏に參りて現に追はるゝ語	
----------------------	--

第四	三〇七
----	-----

仁和寺の成典僧正、尼天狗に値ふ語	第五
	三〇〇

佛眼寺の仁照阿闍梨の房に天狗の託きし女の來る	
------------------------	--

語	第六
	三二一

染殿の后天狗の爲に嬖れ亂さるゝ語	第七
	三二三

其源僧正靈と成り觀音院に來りて餘慶僧正を伏す	
------------------------	--

る語	第八(關文)
	三七

天狗を祭る法師男に此の術を習はしむと擬す語	
-----------------------	--

第九	三八
----	----

陽成院の御代に瀧口金の使に行き外術を習ふ語	
-----------------------	--

第十	三二
----	----

龍王天狗の爲に取らるゝ語	第十一
	三六

伊吹山の三修禪師天狗の迎へを得る語	第十二
	三九

愛宕護山の聖人野猪に謀らるゝ語	第十三
	三一

野干人の形と變じて僧を請うて講師と爲せし語	
-----------------------	--

第十四(關文)	三三
---------	----

攝津國牛を殺せし人放生の力に依りて冥途より還	
------------------------	--

りし語	第十五
	三三

豐前國膳廣國冥途に行きて歸り來る語	第十六
	三六

讃岐國の人冥途に行きて還り來る語	第十七
	三九

讃岐國の女冥途に行きて其の魂他身に還り付く語	
------------------------	--

第十八	三二
-----	----

橘磐鳥使に賂うて冥途に至らぬ語	第十九	三三
延興寺の僧惠勝惡業に依りて牛身を受くる語	第二十	三五
武藏國大伴赤磨惡業に依りて牛身を受くる語	第二十一	三七
紀伊國の名草の郡の人惡業を造りて牛身を受くる語	第二十二	三八
比叡山の横川の僧小蛇の身を受くる語	第二十三	三九
奈良馬庭山寺の僧邪見に依りて蛇身を受くる語	第二十四	四〇
古京の人乞食を打ちて現報を感じる語	第二十五	四一
白髮部猪磨乞食の鉢を打ち破りて現報を感じず語	第二十六	四二
長屋親王沙彌を罰めて現報を感じる語	第二十七	四三
大和國の人兔を捕へて現報を感じる語	第二十八	四四
河内國の人馬を殺して現報を得る語	第二十九	四五

目次

和泉國の人鳥の卵を焼きて食ひ現報を得る語	第三十	四六
大和國の人母の爲に不孝なるに依りて現報を得る語	第三十一	四七
古京の女母の爲に不孝なりしに依り現報を感じる語	第三十二	四八
吉志火丸母を殺すに擬ひ現報を得る語	第三十三	四九
出雲寺の別當淨覺父の成りたる鯨の肉を食ひ現報を得て忽ち死する語	第三十四	五〇
比叡山の僧心懷嫉妬によりて現報を感じる語	第三十五	五一
河内守慳食に依りて現報を感じる語	第三十六	五二
財に耽りて娘の鬼の爲に噉はるゝを悔ゆる語	第三十七	五三
石川沙彌惡業を造つて現報を得る語	第三十八	五四
清瀧河の奥に聖人「楞り」を成して悔ゆる語	第三十九	五五

目次

一〇

九	義紹院化人と知らず施しを返され悔ゆる語	第四	三七五
十	高市中納言正直に依りて神を感じる語	第四十一	三七六
	女人心風流たるに依り感應を得て仙となる語	第四十二	三七九
	勘文に依り左右の大將愼むべくして批把の大臣愼まざる語	第四十三	三六〇
	下毛野敦行我が門より死人を出す語	第四十四	三六一
	小野篁情に依りて西三條の大臣を助くる語	第四十五	三六四
	能登守直き心に依りて國を息め財を得る語	第四十六	三六五

卷第二十一(關卷)

卷第二十一

大織冠に始めて藤原姓を賜ふ語	第一	三八八
淡海公四家を繼ぐ語	第二	三八二
房前的大臣北家を始むる語	第三	三八三
内膳の大臣惡馬に乗る語	第四	三八三
閑院冬嗣右大臣并に子息の語	第五	三九四
堀河の太政大臣基經の語	第六	三九五
高藤の内大臣の語	第七	三九七
時平の大臣國經大納言の妻を取る語	第八	四〇三

卷第二十三

本朝附大織冠

平維衡同じく致賴合戰して咎を蒙る語	第十三	四〇九
左衛門尉平致經明尊僧正を導く語	第十四	四一〇
陸奥前司橋則光人を切り殺す語	第十五	四一三

駿河前司橋季通構へ逃げたる語	第十六	四二六
尾張國の女、美濃狐を伏せる語	第十七	四二九
尾張國の女細疊を取り返す語	第十八	四三二
比叡山の實因僧都強力の語	第十九	四三三
廣澤の寛朝僧正強力の語	第二十	四三五
大學の衆相撲人の成村を試す語	第二十一	四三七
相撲人海の恆世蛇に會ひて力を試みし語	第二十	四三〇
相撲人の私市の宗平鰐を投げ上ぐる語	第二十三	四三三
相撲人大井の光遠の妹強力の語	第二十四	四三五
相撲人成村當世勝負の語	第二十五	四三七
兼時敦行競馬勝負の語	第二十六	四四〇

卷第二十四

本朝附世俗

北邊の大臣長谷雄中納言の語	第一	四四二
---------------	----	-----

目次

高陽親王人形を造りて田の中に立てたる語	第二	四四三
小野宮の大饗に九條大臣の得たる打衣の語	第三	四四四
爪の上に於て勁服を返す男針を返す女の語	第四	四四五
百濟川成飛驒の工を挑む語	第五	四四五
某擲ち寛蓮某擲ち女に値ふ語	第六	四四八
典樂の寮に行きて病める女を治す語	第七	四五一
女、醫師の家に行き瘡を治して逃ぐる語	第八	四五三
蛇に嫁ぐ女を醫師治す語	第九	四五七
震旦の僧長秀此の朝に來りて醫師に仕はるゝ語	第十	四五八
忠明龍に値へる者を治せし語	第十一	四五九
雅忠人を見て家に瘡病有るを指す語	第十二(關文)	四六一
慈岳川人地神に迫はるゝ語	第十三	四六一
天文博士の弓削是雄夢を占ふ語	第十四	四六四
賀茂忠行道を子の保靈に傳ふる語	第十五	四六六
安部晴明忠行に隨ひて道を習ふ語	第十六	四六七

目 次

一二

保靈晴明共に覆物を占ふ語 第十七(關文)……………	四七二	藤原爲時詩を作り越前守に任ずる語 第三十……………	四九三
陰陽術を以て人を殺す語 第十八……………	四七二	延喜の御屏風に伊勢御息所和歌を讀む語 第三十	
播磨國の陰陽師智德法師の語 第十九……………	四七三	一……………	四九三
人妻惡靈となり其の害を除く陰陽師の語 第二十……………	四七四	敦忠の中納言南殿に櫻の和歌を讀む語 第三十二……………	四九七
僧の登照朱雀門の倒るゝを相する語 第二十一……………	四七六	公任の大納言屏風の和歌を讀む語 第三十三……………	四九八
俊平入道弟に算の術を習ふ語 第二十二……………	四七八	公任の大納言白川家に於て和歌を讀む語 第三十	
源博雅朝臣會坂の盲の許に行く語 第二十三……………	四八三	四……………	四九〇
女象琵琶鬼の爲に取らるゝ語 第二十四……………	四八五	在原業平中將東の方に行きて和歌を讀む語 第三	
三善清行の宰相と紀長谷雄と口論する語 第二十		十五……………	四九三
五……………	四八六	業平右近の馬場に於て女を見て和歌を讀む語 第	
村上天皇菅原文時と與に詩を作り給ふ語 第二十		三十六……………	四九四
六……………	四八六	藤原實方朝臣陸奥國に於て和歌を讀む語 第三十	
大江朝綱の家の尼詩の讀みを直す語 第二十七……………	四八九	七……………	四九五
天神御製の詩を人の夢に讀み示し給ふ語 第二十		藤原道信朝臣父を送りて和歌を讀む語 第三十八……………	四九七
八……………	四九〇	藤原義孝朝臣死して後和歌を讀む語 第三十九……………	四九〇
藤原資業詩を作り義忠難ずる語 第二十九……………	四九一	圓融院の御葬送の夜朝光卿和歌を讀む語 第四十……………	四九二